

# (平成22年度入学生対象)

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔教育学部第四類(生涯活動教育系)造形芸術系コース〕

プログラムの名称(和文)	造形芸術教育プログラム
(英文)	Art Education Program
<b>1. プログラムの紹介と概要</b> 造形芸術教育プログラムでは、生涯教育における造形芸術の専門的指導者および中学校美術科教員、高等学校美術教員を養成する。 本プログラムは生涯教育機関および中学校、高等学校の造形芸術(美術)教育を実施する上において必要な、造形芸術教育学、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史の教育とその内容に関する基礎的基本的な知識、能力、技能および態度を体系的に身につけ、生徒あるいは一般社会人の発達段階、学習段階、興味関心に応じた授業を展開したり、学習意欲を引き出し、発展的な学習を組織したりできる教育実践力を持った人材およびそれらを加味した上で自ら造形表現の活動を展開できる人材を育成することを目標にしている。 本プログラムでは上にも記したとおり、中等教育の教員および企業や生涯教育機関において専門的指導者として活躍できる基礎的基本的知識、能力や技能の育成と同時に、関連分野の大学院に進学し研究者として活躍する人材養成にも十分配慮している。	
<b>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)</b> プログラム開始(選択)時期は、1年次(入学時)である。	
<b>3. プログラムの到達目標と成果</b> (1) プログラムの到達目標 本プログラムは、生涯教育における造形芸術の指導者および中等造形芸術教員として必要な次のことの達成を目指す。 1) 自ら優れた造形表現活動を展開するための技能を習得する。 2) 造形芸術教育の教授内容に関連した基礎的基本的な認識を形成し、その研究能力を得る。 3) 教科教育的思考を育成し、教育研究能力を得る。 4) 造形芸術教育のすぐれた実践力を習得する。 本プログラムにおける教養教育は専門教育の基盤づくりを担う。今日の造形芸術が、その問題意識の面でも、いわゆる文系理系の枠を超えた総合科学的視野を要求していることに鑑み、人文科学、社会科学だけでなく、諸科学に関する基礎的基本的知識・理解を習得する。あわせて外国語能力を向上させ、積極的な情報の収集・発信、コミュニケーション等の能力を養う。	

(2) プログラムによる学習の成果 (具体的に身につく知識・技能・態度)

○知識・理解

- 1) 生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について知識や理解がある。
- 2) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)に関する知識や理解がある。
- 3) 造形芸術教育の理論と方法に関する知識や理解がある。

○知的能力・技能

- 1) 造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。
- 2) 造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。
- 3) 造形芸術教育の研究課題(表現を含む)を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。

○実践的能力・技能

- 1) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)に関する技能を習得したり、その特質に応じた表現ができたりする。
- 2) 造形芸術教育の授業・指導やカリキュラムを構想・立案したり、学習指導案や計画としてまとめたりすることができる。
- 3) 造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的に発表(プレゼンテーション)することができる。

○総合的能力・技能

- 1) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)固有の課題を理解し、より発展的な表現へと進化させることができる。
- 2) 造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘することができる。
- 3) 知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し、これを研究・探求するとともに、効果的な媒体で表現することができる。

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

本プログラムが提供する学位は、学士(教育学)である。その取得には本プログラムで実施される授業科目を履修する(選択を含む)ことによって修得する128単位を条件とする。

128単位の内訳は教養教育科目46単位、専門基礎科目18単位、専門発展科目30単位、自由選択科目28単位、卒業研究6単位(卒業論文4単位を含む)である。

(2) 得られる資格等

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、卒業時に中学校教諭一種免許(美術)と高等学校教諭一種免許(美術)を得られる。また、特定プログラムを追加して修得すると、卒業時に博物館学芸員となる資格、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格が得られる。

### (3) プログラムの構造

本プログラムは大きく分けると教養教育と専門教育から成っている。教養教育は1、2年次での履修が中心になるが、4年間にわたって学習を続けることが可能である。専門教育1、2年次において造形芸術教育を学習していく上で必要な概括的かつ基礎的知識と技能を獲得し、3、4年次においてそれらの発展的内容を学んで学習を深めることができるよう構成されている。また、教員免許取得希望者は、2年次以降に自由選択科目として開講される教職関係科目を履修することで免許を取得することができる。

### (4) 卒業論文（卒業研究）（位置付け、配属方法・時期等）

#### ○目的

卒業論文は本プログラムが主として目指す、生涯活動における造形芸術の専門的指導者および中等造形芸術教員養成の到達点であり、学年進行とともに身につける知識、技能、開発される能力を総合化し、自らの到達水準を見極めることを目的とする。もちろんそれは終着点ではなく、その後の発展、深化を促すためのものでもある。

#### ○概要

学生は、造形芸術教育学、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学の6分野から1分野を選択する。「卒業研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（造形芸術教育学、造形芸術学）または「卒業研究基礎制作Ⅰ・Ⅱ」（絵画、彫刻、デザイン、工芸）を順次履修しながら論文指導教員の指導のもと、各自が選択するテーマに即して研究を進め、4年次10月の所定期日に研究テーマを、1月末に卒業論文を提出する。

なお、絵画、彫刻、デザイン、工芸の各分野においては作品制作を論文に含める。

#### ○配属時期と配属方法

3年次前期（5セメスター）末に学生の希望、学習状況、設備の条件などを勘案して卒業論文指導教員を決定し、主たる研究分野を選択する。3年次後期以降、「卒業研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究基礎制作Ⅰ・Ⅱ」をはじめ、必要な授業科目のほか、主たる研究分野の授業科目を中心に履修をすすめ、4年次に卒業論文を作成する。

## 5. 授業科目及び授業内容

別紙3を参照

## 6. 教育・学習

### (1) 教育方法・学習方法

別紙1を参照

(2) 学習支援体制 (簡潔に箇条書きにしてください)

## 7. 評価 (試験・成績評価)

### (1) 到達度チェックの仕組み

#### ○個人成績

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可、不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は所定の計算法により、GPA として累積する。
- 3) 学年ごとに GPA を算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする。
- 4) 各学年で評価項目ごとに到達度を判定し、個々の達成水準を明示する。

#### ○成績評価

- 1) 1年次、2年次、3年次には、取得単位数と成績到達水準により、次年次への進級が判断される。
- 2) 未到達者には問題点と課題が提示され、求められる水準に達したときに、次年次に進級できる。
- 3) 4年次では、それまでの成績、卒業要件取得単位数、評価項目ごとの到達度に加味して、卒業論文の成績により、本プログラムでも総合的な成績評価が提示される。

### (2) 成績が示す意味

別紙4を参照

## 8. プログラムの責任体制と評価

### (1) PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

本プログラムは主として教育学部の造形芸術教育学講座のスタッフによって遂行される。遂行上の責任はプログラム責任者 (造形芸術教育学講座の主任) にある。計画・実施・評価検討・対処は本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は教育学部内の担当部会によって進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

### (2) プログラムの評価

#### ○プログラム評価の観点

本プログラムでは教育的効果と社会的効果を評価の観点とする。教育的効果ではプログラムの実施自体における学生の学習効果を判定し、社会的効果ではプログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

#### ○評価の実施方法

本プログラムは上記の観点に従い、原則として入学して4年を経た年次にプログラム自体の成果を評価する。

教育的効果に関しては本プログラムを学習した学生の到達率 (卒業要件の充足と、希望者の中

等造形芸術系教員資格の充足)による評価、および実施した教員グループによる総合的な評価によって行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価に基づいて本プログラムの到達水準まで学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、70%以上の達成率があるかどうかを点検する。

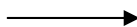
社会的効果に関しては、学生の教員採用試験の合格率による評価、採用後の造形芸術系教員としての成長度による評価、造形芸術教育の指導者としての実績評価として実施される。本プログラムを学習した学生が教員を目指した場合、いつ、どの時点で正教員になったのか、またどのような教員として学校および教育委員会において評価されているのかを、可能な範囲で数年おきに調べ、教員としての成長度合いを総合的に評価する。また、造形芸術教育の指導者を目指した場合、専門的職への採用状況や、公募展での受賞状況などが総合的な評価に評価される。

#### ○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当員会において、プログラムの見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下学年のプログラム運営・実施に反映させる。

## プログラムの教育・学習方法

## ○ 知識・理解



身につく知識・技能・態度等
1) 生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について知識や理解がある。 2) 造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）に関する知識や理解がある。 3) 造形芸術教育の理論と方法に関する知識や理解がある。

教育・学習の方法
造形芸術教育における基礎的基本的な知識・理解（1～3）は、類共通科目を含めた造形芸術教育プログラム専門基礎科目と発展科目における講義、実習、演習など、また、各授業科目が課す自己学習、課題、レポート作成などを通じて獲得できるようにする。
評価
知識・理解（1～3）は各授業にて行う試験、課題、レポート、作品をとおして評価する。

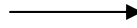
## ○ 知的能力・技能



身につく知識・技能・態度等
1) 造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。 2) 造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。 3) 造形芸術教育の研究課題（表現を含む）を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。

教育・学習の方法
知的能力・技能（1～3）はプログラムの各授業科目における講義、実習、演習を通じて基礎的基本的なものを獲得するとともに、学外での実地研修や卒業研究科目における発表や討論をとおして学習し、よりレベルの高いものとしていく。
評価
知的能力・技能は各授業にて行う試験、課題、レポート、作品などとともに、討論やフィールドでの学習態度、口頭発表をとおして評価する。

○ 実践的能力・技能



**身につく知識・技能・態度等**

- 1) 造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）に関する技能を習得したり、その特質に応じた表現ができたりする。
- 2) 造形芸術教育の授業・指導やカリキュラムを構想・立案したり、学習指導案や計画としてまとめたりすることができる。
- 3) 造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的に発表（プレゼンテーション）することができる。

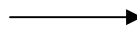
**教育・学習の方法**

実践的能力・技能（1～3）は演習、制作実習などにおける討論、発表、作品制作、カリキュラム作成、教材開発、レポート作成などの活動をとおして身につけ、卒業研究科目、論文作成においてより高度なものへと発展させる。

**評価**

実践的能力・技能（1～3）は各授業科目で課される課題の遂行過程とその結果、および作品、レポートをもって評価する。それらは卒業論文および制作作品においてその達成度が確認できる。

○ 総合的能力・技能



**身につく知識・技能・態度等**

- 1) 造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）固有の課題を理解し、より発展的な表現へと進化させることができる。
- 2) 造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題（技術的課題を含む）を発見し、整理して指摘することができる。
- 3) 知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し、これを研究・探求するとともに、効果的な媒体で表現することができる。

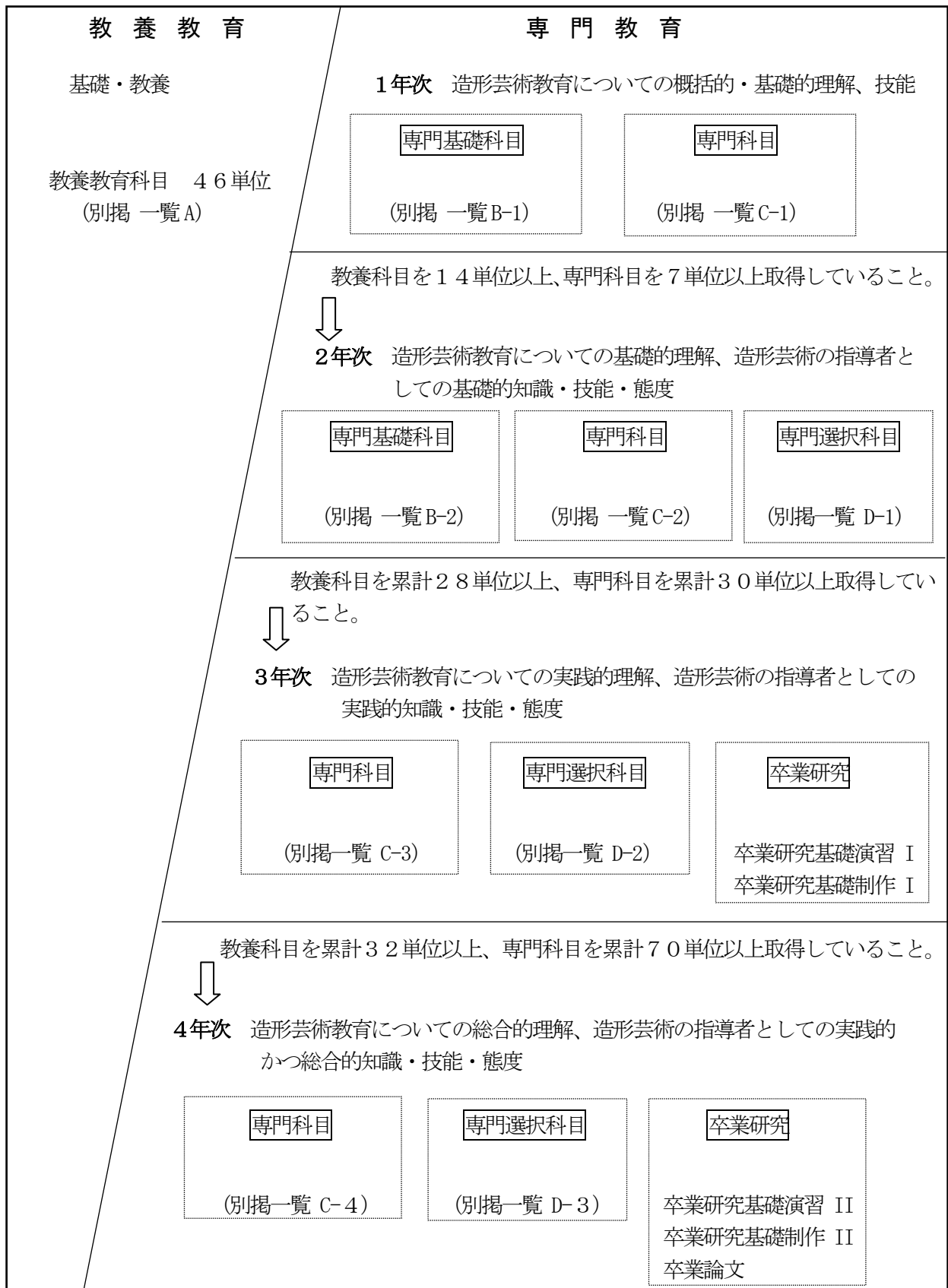
**教育・学習の方法**

総合的能力・技能（1～3）はプログラム全体をとおして発達させるが、総合演習、卒業研究科目などをとおして重点的に身につけ、それ以外の個別の演習や実習においても発展的になるよう考慮し、卒業論文作成（作品を含む）の過程で効果的に発揮できるようにする。

**評価**

総合的能力・技能（1～3）はプログラム全体において総合的に評価する。とりわけ卒業論文作成（作品を含む）とその結果において、学生自身がどの程度の達成度かを確認できるようにする。

(2) プログラムの構造





## 教養教育

<p>[一覧 A 教養教育科目]</p> <p>教養ゼミ 2 外国語科目 10</p> <p>情報科目 2 パッケージ別科目 8 総合科目 2 個別科目 19</p> <p>スポーツ実習科目 1 基盤科目 2</p>	<p>英語 6 コミュニケーション I・II コミュニケーション III</p> <p>英語以外 4 ベーシック外国語 インテンシブ外国語</p> <p>情報活用基礎、情報活用演習から1科目 「パッケージ別科目」の中の決定された1パッケージから4科目 総合科目から1科目 日本国憲法 2 スポーツ科学または運動科学 2 上記以外 15</p> <p>芸術学 2</p>
--	--

## 専門教育

### 1年次

<p>[一覧 B-1 専門基礎科目]</p> <p>芸術教育学概論 絵画表現論 絵画表現実習基礎 彫刻表現実習基礎 デザイン表現実習基礎 造形芸術基礎論 (以上、すべて必修)</p>	<p>[一覧 C-1 専門科目]</p> <p>彫刻教育素材実習 立体デザイン教育演習</p>
---	---

### 2年次

<p>[一覧 B-2 専門基礎科目]</p> <p>生涯活動教育論 (類共通科目) 美術科教育方法・評価論 彫刻表現論 デザイン概論 工芸表現論 工芸表現実習基礎 (以上、すべて必修)</p>	<p>[一覧 C-2 専門科目]</p> <p>美術科教育学概論 芸術教育支援論 美術科授業プランニング基礎 絵画表現演習 絵画表現実習 I 彫刻表現演習 色彩学演習 日本美術史概説 西洋美術史概説 学外研修 人間文化基礎論</p>	<p>[一覧 D-1 専門選択科目]</p> <p>本プログラムの専門発展科目、教育学部の他プログラム、他学部のプログラムの専門科目から自由選択。ただし、教員免許取得希望者は以下の教職関係科目は必修である。 教職入門 教育の思想と原理 教育と社会・制度 生徒指導論 教育相談 総合演習</p>
--	--	--

3年次

<p>[一覧 C-3 専門科目]</p> <p>芸術教育教材・構成論          芸術教育思想          美術科授業プランニング演習          絵画表現実習          彫刻表現総合演習          彫刻表現実習 II</p> <p>CG基礎演習          工芸教育素材研究 I          工芸教育素材研究 II          西洋建築史</p>	<p>[一覧 D-2 専門選択科目]</p> <p>本プログラムの専門発展科目、教育学部の他プログラム、他学部のプログラムの専門科目から自由選択。ただし、教員免許取得希望者は以下の教職関係科目は必修である。</p> <p>児童・青年期発達論          教育課程・教育方法論</p> <p>道德教育          特別活動指導論          教育実習          介護等体験</p>
--	--

4年次

<p>[一覧 C-4 専門科目]</p> <p>美術科教育指導者論          絵画表現研究          平面デザイン教育演習          工芸表現演習          造形芸術学演習</p>	<p>[一覧 D-3 専門選択科目]</p> <p>本プログラムの専門発展科目、教育学部の他プログラム、他学部のプログラムの専門科目から自由選択。</p>
--	---

## 教養教育科目履修基準表

## 第四類 造形芸術系コース（造形芸術教育プログラム）

区分	科目区分	要修得 単位数	授業科目	単 位 数	履修指定	履修年次																
						1年次		2年次		3年次		4年次										
						前	後	前	後	前	後	前	後									
教養教育	共通科目	外国語科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	②														
			英語 (注1)	コミュニケーション I	コミュニケーション I A	4	コミュニケーション I A	各1	選択必修	○												
					コミュニケーション I B		○															
					コミュニケーション II A					○												
					コミュニケーション II B					○												
			上記4科目のうちから2科目以上 (注2)																			
			英語 (注1)	コミュニケーション III	コミュニケーション III	2	コミュニケーション III	各1	選択必修			○	○									
					コミュニケーション III						○	○										
					コミュニケーション III						○	○										
					コミュニケーション III						○	○										
					コミュニケーション III						○	○										
					コミュニケーション III						○	○										
上記6科目のうちから2科目																						
英語以外の外国語 (ドイツ語, フランス語, スペイン語, ロシア語, 中国語, 韓国語のうち から1言語選択)	英語以外の外国語	2	ベーシック外国語 I	2	選択必修	○																
	英語以外の外国語	2	ベーシック外国語 II	2	選択必修		○															
I, IIは同一言語を選択すること																						
情報科目	2	情報活用基礎, 情報活用演習から1科目	2	選択必修	○	○																
パッケージ別科目	8	「パッケージ別科目」の中の決定された1パッケージから4科目	各2	選択必修	○	○																
総合科目	2	「総合科目」のうちから1科目	2	選択必修			○	○	○	○												
領域科目	21	全ての領域から (注3)		選択必修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
スポーツ実習科目	1	「スポーツ実習科目」から1科目	1	選択必修	○	○	○	○														
計	46																					

注1 : 『英語』の履修については、上記の他、短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」、自学自習による「マルチメディア英語演習」を履修し、卒業に必要な単位（6単位）に含めることも可能である。また、外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。

注2 : コミュニケーション I 及び II は、クラス編成上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」を指定する。

注3 : 教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位及び「スポーツ科学」または「運動科学」から1科目2単位修得する必要がある。  
「芸術学 A, B」から1科目2単位の履修を要する。  
なお、基盤科目を履修し単位を修得した場合は、6単位まで領域科目の単位を修得したものと見なす。

## 学部履修基準

### 第四類（生涯活動教育系）

#### ○ 造形芸術系コース（造形芸術教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数	開設学部		
教養教育	共通科目	教養ゼミ	2	46	総合科学部ほか	
		外国語科目	英語			6
			英語以外			4
		情報科目	2			
	教養コア科目	パッケージ別科目	8			
		総合科目	2			
		領域科目	21			
スポーツ実習科目		1				
専門教育	専門基礎科目		18	82	教育学部ほか	
	専門科目		30			
	専門選択科目		28			
	卒業研究		6			
合計			128			

### 専門教育科目履修基準

#### <履修上の注意>

- 『卒業研究』の6単位は、「卒業研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ」又は「卒業研究基礎制作Ⅰ・Ⅱ」の2単位と「卒業論文」4単位を充てること。
- 『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、28単位まで認める。





## 到達目標評価項目と評価基準の表

## ○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について知識や理解がある。	生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、基礎的・基礎的な事項を教育全体や社会との関わりからの視点から説明できる知識や理解がある。	生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、基礎的・基本的な事項を説明できる知識や理解がある。	生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、基礎的・基本的な知識や理解がある。	別表のとおり
2) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)に関する知識や理解がある。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)の表現と鑑賞に関する深い知識や理解がある。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)の表現と鑑賞に関する基礎的・基本的な知識や理解が充分ある。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)の表現と鑑賞に関する基礎的・基本的な知識や理解がある。	別表のとおり
3) 造形芸術教育の理論と方法に関する知識や理解がある。	造形芸術教育の理論と方法に関する深い知識や理解がある。	造形芸術教育の理論と方法に関する基礎的・基本的な知識や理解が充分ある。	造形芸術教育の理論と方法に関する基礎的・基本的な知識や理解がある。	別表のとおり

## ○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。	造形芸術教育の資料・情報を的確・適切に収集・整理し、批判的・総合的に読解することができる。	造形芸術教育の資料・情報を的確に収集し、適切に整理して読解することができる。	造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。	別表のとおり

2) 造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。	造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。	造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、十分に分析・検討することができる。	造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、分析・検討することができる。	別表のとおり
3) 造形芸術教育の研究課題（表現を含む）を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。	造形芸術教育の研究課題（表現を含む）を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。	造形芸術教育の研究課題（表現を含む）を発見し、整理してまとめることができる。	造形芸術教育の研究課題（表現を含む）を発見することができる。	別表のとおり

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）に関する技能を習得したり、その特質に応じた表現ができたりする。	造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）に関する高度な技能を習得したり、その特質を生かした自由な表現ができたりする。	造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）に関する基礎技能を十分に習得したり、特質を生かした表現ができたりする。	造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史）に関する基礎技能を習得したり、特質に応じた簡単な表現ができたりする。	別表のとおり
2) 造形芸術教育の授業・指導やカリキュラムを構想・立案したり、学習指導案や計画としてまとめたりすることができる。	造形芸術教育の授業・指導を十分に吟味して構想・立案したり、根拠に基づいた確かな学習指導案や計画としてまとめたりすることができる。	造形芸術教育の授業を構想・立案したり、整理された学習指導案や計画としてまとめたりすることができる。	造形芸術教育の授業を構想・立案したり、学習指導案や計画としてまとめたりすることができる。	別表のとおり
3) 造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的に発表（プレゼンテーション）することができる。	造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的、印象的に発表（プレゼンテーション）し、伝えることができる	造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して発表（プレゼンテーション）し、正確に伝えることができる。	造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して発表（プレゼンテーション）することができる	別表のとおり



○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セマスタ
1) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)固有の課題を理解し、より発展的な表現へと進化させることができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)固有の課題を理解し、より自由で発展的、創造的な表現を実現することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)固有の課題を理解し、発展的な表現を実現することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学・造形芸術史)固有の課題を理解し、発展的な表現を試みることができる。	別表のとおり
2) 造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘することができる。	造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘するとともに、課題解決の方策を示すことができる。	造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘することができる。	造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見することができる。	別表のとおり
3) 知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し、これを研究・探求するとともに、効果的な媒体で表現することができる。	社会とのつながりを意識しながら、さまざまな知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し、研究・探求し、効果的な媒体で表現することができる。	さまざまな知識と情報をもとに造形芸術教育の今日的課題を発見し、研究・探求し、効果的な媒体で表現することができる。	知識と情報をもとに造形芸術教育の今日的課題を発見し、研究・探求し、表現することができる。	別表のとおり



## 担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
江崎 哲	担当授業科目：デザイン概論 デザイン表現実習基礎 平面デザイン教育演習 立体デザイン教育演習 色彩学演習 CG基礎演習 学外研修 卒業研究基礎制作 I 卒業研究基礎制作 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 306 E-mail アドレス：	←学外研修は講座 教員で順次担当
菅村 亨	担当授業科目：造形芸術基礎論 日本美術史概説 西洋美術史概説 造形芸術学演習 学外研修 卒業研究基礎演習 I 卒業研究基礎演習 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 105 E-mail アドレス：	←学外研修は講座 教員で順次担当

担当教員名	担当授業科目等	備考
内 田 雅 三	担当授業科目：絵画表現論 絵画表現実習基礎 絵画表現研究 絵画表現演習 絵画表現実習 I 絵画表現実習 II 学外研修 卒業研究基礎制作 I 卒業研究基礎制作 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 204 E-mail アドレス：	←学外研修は講座 教員で順次担当
三 根 和 浪	担当授業科目：生涯活動教育論 (類共通科目) 美術科教育方法・評価論 美術科教育学概論 美術科教育指導者論 美術科授業プランニング基礎 美術科授業プランニング演習 学外研修 卒業研究基礎演習 I 卒業研究基礎演習 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 303 E-mail アドレス：	←生涯活動教育論は オムニバス  ←学外研修は講座 教員で順次担当

担当教員名	担当授業科目等	備考
一 鍬 田 徹	担当授業科目：彫刻表現論 彫刻表現実習基礎 彫刻表現演習 彫刻表現総合演習 彫刻教育素材実習 彫刻表現実習 学外研修 卒業研究基礎制作 I 卒業研究基礎制作 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 107 E-mail アドレス：	←学外研修は講座 教員で順次担当
井戸川 豊	担当授業科目：工芸表現論 工芸表現実習基礎 工芸教育素材研究 I 工芸教育素材研究 II 工芸表現演習 学外研修 卒業研究基礎制作 I 卒業研究基礎制作 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 108 E-mail アドレス：	←学外研修は講座 教員で順次担当
蜂 谷 昌 之	担当授業科目：生涯活動教育論（類共通科目） 芸術教育学概論 芸術教育教材・構成論 芸術教育支援論 芸術教育思想 学外研修 卒業研究基礎演習 I 卒業研究基礎演習 II 卒業論文 (教養ゼミ)  研究室の場所：教育学部 E 棟 205 E-mail アドレス：	←生涯活動教育論は オムニバス  ←学外研修は講座 教員で順次担当